

# 武蔵野市産業振興計画 概要版

(平成 26 年度～30 年度)

## 第 1 章 背景・目的等

### 1. 背景

近年の武蔵野市を取り巻く社会・経済状況をみると、国内経済の低迷下で東日本大震災が発生し、市民の消費行動や生活意識に少なからず変容が見られました。また、平成 24 年末に誕生した現政権の金融政策等により、円安、株価上昇といった動きが見られるようになり、さらに、東京オリンピック・パラリンピックを控え、新たな需要の喚起が期待されています。一方で、社会保障制度の見直し、消費税増税などの内外環境の変化により、今後の市民生活を注視していかなければなりません。

武蔵野市は昭和 30 年代後半より、都市基盤の先導的な整備とまちづくり、商業振興が相まって、また、都市農地や屋敷林等を地域資源として保全・活用することで、緑豊かで利便性の高い暮らしやすい住宅都市として発展し、“住みたい街”として全国に認知されています。計画行政によるまちづくりは、地域生活を支える事業者等の知恵や努力、市民のまちへの愛着や理解、協力が大きく寄与し、生産機能や生活機能の向上などの好循環を育んできました。

しかし、昨今の市内の現況を鑑みると、事業者の 17%が廃業を予定するなど、高齢化や競争激化による事業断絶の課題、路線商店街に立地する個店からの消費離れなどがあり、経済循環のバランスを保っていくことが、今後、困難になることが想定されます。このような状況を踏まえた上で、今後、市内における産業活動を活発化していくためには、まちの魅力を高めることで都市間競争を勝ち抜き、経済循環を促進していくことが必要であるという認識のもと、産業全体を俯瞰した戦略的な方針を定め、施策を総合的に推進するための武蔵野市産業振興計画を策定することになりました。

### 2. 目的

武蔵野市産業振興計画は、市を取り巻く社会環境の変化等を踏まえ、都内有数の住宅都市としての武蔵野市の価値を維持・向上するために必要な産業振興の今後の方向性や施策について、基本理念や基本目標を掲げるとともに、市民にとって快適な買物環境等の再形成と向上のための方策、来街者等にとって楽しみや発見があるまちの魅力づくりの方策等を整理し、活動基準を施策・事業として体系的に提示しています。

そのための課題や方策等について、産業振興の観点から共有し、それぞれの主体の役割、責任を共通認識し、連携・協働して計画を推進することを目的としています。

### 3. 位置付け

武蔵野市産業振興計画は、武蔵野市第五期長期計画（平成 24 年度～33 年度）の中の「Ⅲ 文化・市民生活」分野の計画として策定するものであり、長期計画において示されている考え方や方針を踏まえた、武蔵野市の産業分野全般を対象とした中位計画です。

また、武蔵野市農業振興計画と、武蔵野市観光推進計画の上位計画という関係にあり、武蔵野市商店街振興プランとしての性格もあわせてもつものです。なお、産業施策は、他の分野の施策との関わりの中で総合的に推進されないと実効的な計画とならないため、他の様々な分野の計画と整合性を図りながら、産業振興施策に関わりの深い施策についてふれています。

### 4. 計画期間

10 年程度の中長期的な展望に立つ必要がある一方、武蔵野市長期計画の改定時期に合わせて本計画もあわせて改定をする必要があるため、本計画の期間は、平成 26 年度を初年度とする平成 30 年度までの 5 年とし、次期改定作業を平成 30 年度に実施するものとします。

### 5. 計画策定の経緯

上位計画である武蔵野市第五期長期計画、関連する他分野の各種計画、委員会などからの報告、アンケート調査・ヒアリング調査の結果などを踏まえ、多様な市民参加を得て、また、策定過程を公開しながら、以下の通り取組んできました。

- |                            |                       |
|----------------------------|-----------------------|
| (1) 武蔵野市産業振興計画（仮称）策定委員会の設置 | (4) 武蔵野市産業振興推進本部の設置   |
| (2) 市民委員の公募                | (5) 産業振興基礎調査等の実施      |
| (3) 策定委員会の公開               | (6) 中間報告のパブリックコメントの実施 |

## 第2章 現況の整理

(略)

## 第3章 課題の整理

### 1. まちの魅力の維持・創出

武蔵野市のイメージを構築するまちの魅力を維持するとともに、時代の変化や人々のニーズに合わせて、新たなまちの魅力を創出していくことが必要です。

しかし近年では、個性的な店が“どこにでもあるチェーン店”に変化することにより、まちの魅力が損なわれてきているとの声も聞かれるようになってきました。また、建築物の更新・改修等が進まないために、テナントの出店要件を満たせないなどの問題も発生しています。さらに、対東京都の小売吸引力は低下しており、今後の推移が懸念されます。

安心して、居心地良く、買い物を楽しむことのできるまちの環境を整えることが課題となっており、継続的に域外マネーを獲得することが必要とされています。

また、商業集積地における商業振興のみならず、良好な居住環境を維持しつつ、都市型産業を地域経済拡充の牽引役として育成することや、農地の保全を図り、地域への愛着を育み武蔵野市らしさを形成する農業を地域活性化に貢献する産業として支援することが求められています。

### 2. 地域生活の維持・向上

今後、少子高齢化の一層の進展が見込まれる本市において、誰もが地域で安心して生活するための課題解決型のサービスの充実を図ることが必要です。

市民の日常生活を支える路線商業や、まちの安全・安心を守り、祭事などの商店会活動が持続されることが必要ですが、多くの路線商店街は厳しい環境にあります。また、閉店後の店舗は住居化される傾向が強く、商店街の店舗の連続性が損なわれ買い物場所としての機能が果たせなくなったり、商店会組織の構成員が減少し、活動に支障を来したり、解散にいたるなどの事態があります。こうした問題に対して、まずは事業主や商店会組織の自助努力による解決を求め、地域課題を解決するという視点から、行政や関係団体による支援が実施されてきました。今後は、市民に対し理解醸成を図り、市民やNPO、大学、大型店や多様な他産業の事業者等と協力して解決策を図ることが求められます。

商店会組織については、構成員の絶対数の減少だけでなく、商業集積地における組織率の低下が伺われることから、加盟のメリットや責務を明示し、商店会組織の役割や組織規模の再構築を図ることで、組織力を強化することが必要です。これらの取組みは、個々の商店会だけでなく、各地域の商店会連合会や全市の商店会連合会において行われることが求められています。

### 3. 人材の確保・育成

武蔵野市内で就業を望む市民や、高齢者を含め、家庭や地域に埋もれた人材が多数存在すると考えられることから、人材やニーズの掘り起こしを行い、職業能力の育成を支援することが必要です。

一方、市内事業者に対しては、ワークシェアによる新たな雇用の創出や、ワークライフバランスの向上も含め、多様な働き方を受容する雇用・労働環境の育成を支援することが必要です。

市内で創業・出店等を希望する人々にとって、障壁となり得る情報や支援の得難さを低減するために、市内産業・地域の核となる人材を「見える化」するなどの策を講じることが必要です。

また、吉祥寺駅周辺地域は、事業試行に相応しい地域として評価されてきた特性を活かし、事業展開に意欲のある事業者や起業・創業者を支援することで、産業の新陳代謝を促すとともに、今ある産業の拡充や承継を促すことが必要です。

### 4. 産業基盤の強化

武蔵野市内の事業所の多くは個人や小規模の単独事業所のため、経営戦略や資金調達の計画立案、環境対策等への対応などに取組むための専門職種を独自に雇用することが難しい環境にあります。市内で創業する専門職種とそれらの専門知識を必要とする事業者をマッチングするなどにより、市内創業者に対して、事業機会の創出を図るとともに、経営基盤の強化に向けた支援を行うことが必要です。

また、市内の全国区の飲食チェーン本部や大学・研究機関が複数立地する環境を維持し、最大限活かすための産学官連携の基盤強化を図ることが課題です。

強固な産業基盤を築くために、市民・事業者・産業経済団体及び市が、連携・協力し、定期的に市内産業の状況を把握することで、変化に応える策を迅速に講じることが求められています。

## 第4章 基本理念・目標

### 1. 基本理念

武蔵野市は緑豊かな住宅都市であるとともに、広域的な集客が図れる商業施設等が集積する吉祥寺を有し、市民のみならず多くの人々に親しまれるまち、生活文化を発信するまちとして発展してきました。

この地の利を活かした都市型産業を育成し、都市や地域の抱える様々な課題を市民と事業者が一体となって取組んでいくことで、誰もが安心して暮らし、働き、楽しむことのできるまちとして、時代とともに変化し、選ばれ続けるため、本計画の基本理念を次のように定めます。

**“まちの魅力”を高め “豊かな暮らし”を支える 産業の振興**

### 2. 基本目標

#### (1) 武蔵野のブランド力を高める産業振興

ライフスタイルや価値観の多様性を受容する時代において、多様な人々に選ばれる武蔵野であるために、豊かな環境を活かし、個々の期待に応えた産業の振興を図ります。

武蔵野に暮らし、働き、集う人々に、まちづくりや文化創造と一体となり、居心地のよい空間と充足した時間を提供するための土壌を育みます。

#### (2) 地域生活を支え合う産業振興

憧れを抱かれる住宅都市として、多様な世代が地域で安心して暮らし続けることのできるまちであるために、商店街をはじめ日常生活を支える身近な産業の振興を図ります。

武蔵野に暮らし、働き、集う人々の知恵や経験、技術を活かし、地域の人々のニーズに応える新たな担い手を迎えるための土壌を育みます。

#### (3) 武蔵野市内で働く多様な人材による産業振興

働き方や働く環境が刻々と変わる中、働きたいと望む誰もが、心地よく働き続けることのできる環境であるために、働く人々の自己実現を支援する開かれた産業の振興を図ります。

武蔵野で働く人々が培ってきたネットワークや技術、武蔵野に暮らし、働き、集う人々が潜在的に持つ力を地域や次代に活かすための土壌を育みます。

#### (4) 都市の活力を担う産業振興

個性と魅力あふれる武蔵野であるために、いにしえより営まれてきた農業やまちの発展とともに歩んできた商工業、サービス産業など、地域の歴史とともに育まれ、地域の未来を育む産業の振興を図ります。

武蔵野に集まり、営まれる産業を守り、よりよく次代に受け継ぐための土壌を育みます。

## 第5章 施策の体系

(後述)

## 第6章 計画の推進と見直し

### 1. 市民・事業者・産業経済団体及び市が連携した取組みの推進

産業振興施策は多岐にわたり、その内容も多様であるため、その実施にあたっては、多様な主体がそれぞれの領域において、連携しながら積極的に行われるよう、産業分野に関わるあらゆる市民や関係機関と連携した取組みを推進していきます。

### 2. 武蔵野市産業振興推進本部による施策の進行管理

産業振興施策が着実に効果的に取組まれているかどうか、庁内に設置された武蔵野市産業振興推進本部において、武蔵野市産業振興計画の進行管理を行います。

### 3. 武蔵野市産業・経済政策懇談会による協議

産業振興施策の推進にあたっては、武蔵野市産業・経済政策懇談会を設置して必要な施策についての意見交換を行い、協議します。

### 4. 次期計画の改定

次期計画の改定は、平成30年度を目途に行うものとします。

## 第5章 施策の体系

### 1. 武蔵野のブランド力を高める産業振興

#### (1) 武蔵野の特性を活かした産業振興

- ①武蔵野のブランドイメージの確立と向上
- ②都市型産業の誘致・育成等の推進
- ③都市農業の振興と農地の保全

#### (2) 都市観光の推進

- ①武蔵野の資源を活用した都市観光
- ②観光・シティプロモーションの推進
- ③推進体制等の充実と強化

#### (3) 都市生活を支えるまちづくり

- ①商業地域のリニューアル
- ②交通・物流体系の整備
- ③歩いて楽しい快適なまちづくり
- ④安全・安心なまちづくり

### 2. 地域生活を支え合う産業振興

#### (1) 市民の生活を支え、高める商店街の形成

- ①魅力ある個店づくり
- ②商店街環境整備の推進
- ③活力ある商業・商店街活動の推進
- ④大型店等と商店会が連携・協力した商業活性化

#### (2) 市民ニーズ等に対応したサービスの充実

- ①市民生活の課題に対応したサービス等の推進

### 3. 武蔵野市内で働く多様な人材による産業振興

#### (1) 起業・創業の活性化

- ①起業・創業の支援

#### (2) 雇用・労働環境の充実

- ①就労支援策及び市内雇用の推進
- ②ワークライフバランスの推進
- ③高齢者・障害者の雇用・就労支援

#### (3) 人材の育成と活用

- ①人材育成の充実
- ②後継者育成
- ③地域人材等の活用

### 4. 都市の活力を担う産業振興

#### (1) 産業基盤の高度化の推進

- ①事業等の高度化推進
- ②連携・共同事業の推進
- ③広域的連携の推進
- ④市内事業所の環境対策の推進
- ⑤情報化・国際化の推進

#### (2) 産業基盤の安定化の推進

- ①中小企業の経営支援の充実
- ②事業承継の推進
- ③市内事業者の状況把握